
ごーいんぐ・まい・うえい

失敗は成功の元

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ごーいんぐ・まい・うえい

【Nコード】

N2044Y

【作者名】

失敗は成功の元

【あらすじ】

近衛木乃香に双子の兄がいました。途中から変な方向に行っている気がしますが、気にせず投稿します。

（前書き）

とりあえず、無理やり物語を終わらせてみました。

その子は変だった

近衛木乃香の双子の兄である桜歌^{おつか}

男の人に抱かれると泣き喚き、女の人に抱かれるピタツと泣き止む
いつの間にか気とか魔力とか放出してた

ハイハイするのが異様に速い（↑気でブースト）・・・でもすぐに
力尽きる

立とうとして転んだら転がり続け、女の人がそばを通ればそちらに
曲がる

お風呂が好き

ここまでだったらまだよかった

神鳴流の稽古をみかけ、枝をふって真似して斬空閃もどきを放つ
何度か放つと切れるだけでなく、砕いたり、対象を通過したりしだ
した

稽古をしていた見習いたちにも飛んでいき、避け損ねる（皆ポカー
ンとしてた）が斬れなかった、でも服が斬れた
キラーンと目が光り、それを見ていた他の見習いたち（主に女性）
が思わず身を引いた

乱れ打つ子供、逃げ惑う女性たち、目を奪われる野郎ども

慌てて関西呪術協会の長に報告

お茶を飲んで木乃香の話を聞いていた詠春は吹き出し、木乃香は話についていけてなかった

稽古をつけて力をむやみに使わせないように教育しようにも逃げる
逃げる

ある日は身体を強化して逃げ惑い（すぐ捕まった）

ある日は空中を駆けて逃げ出し（驚かせたが、すぐ捕まった）

ある日は服を切って騒ぎを起こそうとして避けられ、タイミング悪くたまたま様子を見に来た美人さん（後に、一生の不覚と怒る青山鶴子さん）に当たってしまい、死の一步手前まで追いつめられる

他にも分身（見破られる）やら、隠れる（お腹が鳴って見つかった）やら、転移魔法を使うやら（成功）、果ては追いかける者をやろうした（数人氣絶させたが、妹に撃墜された）

最初は青山姉妹を超えるかもと期待していた関西呪術協会のほとんどが見切りをつけたのはしかたがなかっただろう

そんな風にセクハラしたり、稽古したり、隠れてコソコソ何かしたり、妹と遊んだり、妹に沈められたりしていた

ある日、詠春が一人の女の子を連れてきた

白い長い髪のかわいい女の子で、そわそわ、おどおど、びくびくしていた

詠春は微笑みながらその子のそばに佇んでおり、木乃香はその子に興味を持ち、桜歌は・・・

ドン引きしていた

「お・・・桜歌？ どうしたんですか？」

「な、なんでもないよ！」

「だって、明らかに引いてるじゃないですか？」

「大丈夫だって！ 冷静、冷静だよ、父さ・・・いや、詠春さん！」
「え・・・？」

急な話の展開に詠春はもちろん、女の子二人は置いてきぼりである

「だから父さ、詠春さん！「ちょっ！？」冷静に、冷静に山を下りて、交番に行つて、自首してきてください。」

「お、桜歌！？」

「「え・・・？」」

バツ！と詠春が女の子たちの方を向けば、木乃香はかわいらしくこちらを睨み、泣きそうな女の子を抱いて距離をとろうとしている

「桜歌！ 変な誤解をするんじゃないやありません！ この子は私の知り合いの子で、事情があつて引き取つたんです！」

「あ、そうなんだ？ よかつた詠さ、父さんがとうとうやっちゃつたのかと思つたぜ！

驚かせんなよ！」

「あ、そっなんや（ホッ）」

「木乃香！？」

せっかくのお披露目が台無しである

「まったく、なんでそんな考えになるんですか？」

「だって母さんって歳の割に女の子みたいで可愛かったじゃん？
知ってるぜ？ ロリータっていうんだよな？」

「誰だ！？ この子に変なこと教えたの！？」

「で、父さんはロリコンなんだよな？」

「違うわ！」

「父様……」

「ふえ……」

「木乃香！？ 刹那君！？」

こうして、近衛家に桜咲刹那が住むこととなった

季節は巡る

「花見だー！！」

「きれーやねー、せっちゃん」

「そーやな、このちゃん」

「あっはっは、桜ん坊も飲めや」

「マジで！？ 俺酒初めてなんだよなー」

「兄様？ あかんえ」ゴン！

「へぶっ」

花見で鬼達をよんで騒いだ

「若が逃げたぞー！」

「若ー！ どこですかー！」

「（ピーキンッ）そこや！」 斬！

「ぬおー！？ う、腕を上げたな、せつたん！」

「せつたんはやめてゆうたよな？」

いつものように逃げてたら刹那に捕まった

「 人類最強に会ってきます 」

「 誰や！？ 鶴子師範か！？ 」

「 いや、素子はんかもしれん！？ 」

「 た・・・ただいま 」 バタッ

「 「 若あ（兄様あ）——！！！！ 」 」

2、3日どこかに出掛けて帰ってくると、桜歌はしばらく赤色がト
ラウマになった

「 兄様ー！ せつちゃん！ 見て見てー。 」

「 ん？ どうした？ 」

「 このちゃん？ 」

「 妖怪の総大将、ぬらりひょんさんやてー。 」

「 おう、この嬢ちゃんに呼ばれてみたんで来たんだが・・・ここは
どこだい？ 」

「 このちゃん！？ 」

「 木乃香、その人はダメ！ 早く還ってもらってー！！ 」

とある妖怪任侠の総大将がやってきて大騒ぎになった

「このちゃん、ごめん。ごめんなあ」

「くそっ！ 俺がいなかったせいで！」

「もう心配しすぎやて、河童さん助けてくれたんやし。それより兄様、今度はどこにいったん？」

「それがさー。どつかしらない町で括弧つけてる痛いネジ野郎と友達になつてさー。若いんだけど歳いつてるバケモンみたいな女の人封印してきた。久しぶりに死ぬかと思つたね！！　まとめて記憶消してきたから何も問題ないね！！」

「「（どこから突っ込めばええんやろ・・・）」」

刹那が強くなる決意をした（木乃香を守るためであり、桜歌を止めるため）

「木乃香、桜歌、話があります」

「何？」

「最近、過激派の動きが活発になっています。　あなたたちはお義父さんのいる麻帆良に行きなさい」

「え？　何でなん？」

「あなたたちは政治的に利用されやすい。　下手したら道具扱いされかねません。　だからここより安全な向こうにいった欲しいんです」

「人気者はつらいね！」

「いえ、桜歌はおまけです」

「「（おまけて・・・）」」

「父さん！　馬鹿じゃねえの！　おまけがメインの方が世の中多いんだぜ！　食玩とか！」

「木乃香、わかりましたね？」

「で、でも・・・せつちゃん、せつちゃんは!？」

「刹那君はこちらでやる必要があります。後でそちらに行きますので大丈夫ですよ」

「せつちゃん、ホンマなん？」

「このちゃん、うち強くなる。強くなってこのちゃん守られるようになるから、だから待ってて・・・な？」

「せつちゃん・・・」

「このちゃん・・・」

「（何この空気）」

刹那は双子と別れる

物語の舞台は東、麻帆良へと移る。

そこでは新たな出会いが・・・

「あ、ぬらりひょんだ! 久しぶ・・・いや、あいつはもっとカッコよかった。何だお前はー!」 注) 学園長です

「おいおい、家の家系は皆ロリコンなのか? こんな小学生連れ込んで・・・え? 600歳の吸血鬼? ずっとその姿なの? (エターナルロリータ・・・) エロ! エロだなー!」

「へー、昔の父さん知ってんだ？ どう？ 昔からムツツリロリコンだった？」

「すげー！ ロボいんぜ！ 茶々丸？ いい名前だな！ 俺は桜歌だ。 あん？ 変じゃないかって？ お前が変なら俺なんて変態だぜ！」

「神楽坂明日菜ね。 俺は桜歌。 よろしく、アスナン！（ゴン！）」

「せつたん、久しぶり。 隣の美人誰？ え・・・同級生なの？ まじかよもつとと^{ガチャッ}s・・・ざ、斬新な挨拶だな」

「いいね、ここ。 飯美味いし、店員はかわいい子だらけだし。俺が誰かって？ じゃあ俺も聞き返すけど、リンちゃん、どこから来たの？」

そして、物語が始まる

「あれ？ 木乃香、そのガキ、誰？ 先生？ 冗談は・・・何？一緒に住んでる？ ふざけんなー！ そんなうらやしいこと許せるかー！ 殺す、ぶち殺してや（グシャ）・・・」

「図書館島に魔道書？ まじで！？ 行く、行くよ！？ 任せろ、俺がありとあらゆる手段を使って完全犯罪に（グシャ）……………あれ？ 木乃香は？」

「吸血鬼の噂っておまえだろ？ なんでこんなことしてんの？ 性病？ そうか、そうだよな、600歳だもんないろいろ溜まってるんだな。わかったよ。犯罪だけど俺だけは生暖かく見守っておいてやるよ……………」

「茶々丸！ 怪我は！？ 大丈夫？ よかった。おい、ガキ、お前はそんなに俺に殺されたいのか？」

「あっははははは、腹いてえ。く、くしゃみに負ける自称悪の魔法使いつて………… 何でみてんのかって？ だーから、ずっと生暖かく見守ってたんじゃないかねえか」

「へー、俺たち狙いに来てんのかな？ 人気者はつらいね！（スパーン！）」

「…………おい、木乃香を返せ。邪魔するなら死んでいけ」

「先生だろ？ あんなかわいい女生徒に告白されるとは、なんて不純でつらや…………うらやましいね！（ゴシャッ！）」

「またか」。あのゴスロリヤンデレ風の女剣士だろ？・・・いいね。おれがもらっ（シャキーン）いや、やっぱりいいです・・・」

「勝手に人ん家くんなよ・・・ 全く最近の子はどんな教育受けてんだか・・・ あ？ 俺に言われたくない？」

「Zzz・・・ん？ そこ（斬！） またお前らか。 ただの追っかけなら適当に相手したんだが・・・ そんなに木乃香たちを巻き込みたいか。 もういい、ここで終われ」

「おいおい。 父さんとか木乃香油断しすぎだろ？ いくら俺がスパ―中学生だからって顔なじみは斬れ（斬！ 斬！！ 斬！！！！）あ・・・ごめん」

「鬼神で関東を侵略ね？ まったく木乃香は後でお仕置きするとして・・・ これならあの赤色の方がずっと怖い、というか無理。だから・・・眠れ、大鬼神リョウメンスクナノカミ」

「なんでみんな俺を見てんのかな？ 興奮するよ？ 新しいとb（ガシッ）あ、こら、離しなさい。 あ、エヴァ、ど（ザクツ！！）」

「やつぱり俺はSだね。 痛いのがキライ。・・・悪い、心配かk、あ、心配してない？ そうですよ。 俺なんか心配される価値ないんだ・・・」

「弟子にしる？ ヤダ？（ドグシャー！）」

「何で俺引つ張り出されてんの？ しかも向こうかわいい子たくさん応援来てるし・・・ え？ 応援してくれるの茶々丸！？ よっしゃ来いやー！！！」

「ふーん、呪いね？ 解こうか？・・・え、何でそんな目で見られるの？」

「ふむ、仮称ネギパーティーと巻き込まれた一般人か・・・ しかも裸とは、なるほど襲えということですか。 今いk（グチャ・・・）」

「そこー腰を曲げる角度が甘い！ そこ！ もっとキビキビ行動しろ！ いいか！ 多くの女性にゆとりと楽しみを与えるのが俺たちに課せられた使命だ！ 死ぬ気でやれ！」

「さよちゃんは無事かー！？ あ、さよちゃん危ないー！（ザクザクッ）」

「くうううう、うらやましい、（明日菜）美少女とデートとはうらやましいぞー！ やはり今からでも遅くはない、その命もら（ドゴンー）」

「まじで！？ じゃ、ハーレムもできなくはないよね？ 解析だ！ 実験だ！ 今日から突貫作業で世界樹の秘密丸裸にしてやらー！ あ、何d（シャキーン）ごめんさない。 許してください。 出来心だったんです」

「あれ？ なんか同じ存在があちこちにいんだけど？ 何が起きて

いるのやら？ ま、いいか。 木乃香ー！ せったーん！ 遊ぶぞー！」

「武道会で優勝賞金一千万ね。 そんなはした金のためにわざわざメンドイことはしないよ。 そんな暇あれば木乃香とせったんと愛を育んでるわ！（ドゴン！）」

「おいおい、やりすぎじゃね？ 秘匿はどうした。 やっぱこのやつら全員アホだろ？ 俺に言われたら終わりだぜ？」

「リンちゃんがそんなことをね。 時間という概念に対して色々諸説はあるが・・・どう考えてもリンちゃんは救われねえな・・・」

「お、どうやらガキどもが来たようだ、ここはあいつに譲っておきましょうかね？ じゃあな、リンちゃん」

「変な部活作ったもんだね？ いや、いらねえよ。 俺とそいつは交わらんからな。 特に！ イギリス紳士を自称しながらセクハラ働く変態とはな！（スパドググシャー！）」

「え、あいつら一般人巻き込んで魔法世界にいったの？ うわゝ、トラブルメーカー極まれりだね。」

「やってきました魔法世界！ ネギパーティーの困っている様子を見に来ただけ・・・ 何この影？ 邪魔（カシャーン・・・）」

「あんたがラカンなんだ？ （ガシッ！）・・・友達になれそうだ

な！ あれ？ ガキと・・・ちうちゃんver・ロリ！？ ひゃつはー！ Getだぜ！！」

「闇の魔法ね？ 魔法を取り込む魔法で、ガキは今内面世界で奮闘中・・・なんで肉体に影響でんの？ 精神の問題じゃねえの？ それにこんなもん、人間から外れるだけなのに馬鹿だねえ？」

「内気な文学系少女の悲鳴を聞きつけて！ 世界紳士同盟第7位『ちえりー』推参！ やや、そこにおわすのはオッパイを愛でる会の同志、パイオ・ツウさんではないですかー！ くっ！ あなたとは戦えない！ さらば！」

「ヤッホー！ 生きてたんだね？ もっと丁寧にやるときや良かったよ。ふん？ 木乃香、刹那、明日菜について。さて、お前らの目的は二十年前から変わってないんだろうな？ 動くな。今話してんだろ？ お前らはそんな計画とっとと放り出して他の方法探せばよかったんだよ。魔法世界をs（ドゴゴゴゴゴン！！！！！！）・・・キレんなよ」

「時間ねえみたいだし・・・俺も動こうかな？ あいつらだけに任せても問題ないだろうが、世界が荒れる。道化は一度舞台から姿を消しましょう。世界の裏方で全て終わらせましょう。」

「お前（ネギ）はここまでだ、俺が勝手に終わらせる」

「魔力を生み出せないこの世界の原因を調べんのもいいが、時間が無いっばいし」

「いつそ壊すのもありだが、せつかく生きてんだし守んねえとな」

「こんな荒れ果てた世界（火星）に今まで幻想世界を持ちこたえられる魔力があるんだ」

「こんなに距離（火星から地球）を結ぶことのできるゲートがあるんだ」

「だったら繋げればいい」

「この他の星々と」

「集めればいい」

「この広大な宇宙から」

「どいつもこいつも頭かてーんだよ」

「自分にできないからと変な方向に走りやがって」

「力を、知恵を、術を借りろよ。教えてもらえよ。手伝ってもらえよ」

「妖怪に、精霊に、聖霊に、仏に、悪魔に、神に」

「幻想が実在するこの世界にあるあらゆる存在に」

「乞い、願い、拝み、足掻き、求め、諦めず」

「俺だつてできることはホンの少しだけだ」

「俺より上の存在なんて数えきれるか」

「忘れてんのかね」

「造物主とか神とかほざきながら」

「人は、度し難いね」

桜歌がネギたちと別れて7日目、拳闘大会が終わり、「完全なる世界」が動き出そうとしたその日、世界は創られた

(後書き)

ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2044y/>

ごーいんぐ・まい・うえい

2011年11月4日04時18分発行